

アンノウスカウト物語 (Unknown Scout)

— 名も知れぬスカウトの善行 —

1909年の秋のことでした。

イギリスの都、ロンドンは、この日も一日中濃い霧に
つまれていた。

アメリカのイリノイ州シカゴからロンドンにきた
出版業のウィリアム・ボイス氏は、道がわからなくて、
こまりはてていました。

そのとき霧の中から一人の少年が近づいてきました。

「何かお役に立つことがありますか。」と少年は言
いました。

事務所がわからなくて困っていることがわかったと、
少年は先にたって、その事務所までボイス氏を案内
しました。

ボイス氏は、アメリカ人の習慣で、少年にチップを
あげようと、ポケットに手を入れました。

しかしボイス氏がチップを取り出す前に、少年は勢いよく右手を上げて敬礼をしました。

「僕はボーイスカウトです。今日も何か良い事をするつもりでいました。

お役にたててうれしいと思います。スカウトは、他の人を助ける事でお礼はもらいません。」と少年はいいました。
少年からボーイスカウトの事を聞いたボイス氏は、用事をすませてから、少年にボーイスカウトの本部を案内して
もらいました。ボイス氏が少年の名前を聞く前に、少年は姿を消してしまいました。

イギリスの本部でボーイスカウトのことをくわしく調べたボイス氏は、アメリカへ帰って大統領のタフト氏など
に話し、やがて、アメリカでボーイスカウト運動が始められたのです。

その時の少年がだれだったのか、その後もわかりませんでした。

しかし、名前もわからないこの少年の小さな善行が、

アメリカのたくさんの少年に、ボーイスカウトを伝える元になったのです。

